

開館30周年記念 川村清雄展

古今・東西・混ざり合い

2015年 11月3日[火・祝] – 12月20日[日]

【開場式】

2015年 11月2日(月) 午後3時～

休館日: 月曜日(ただし11月23日[月・祝]は開館)、11月24日(火)

開館時間: 午前9時30分～午後6時 (観覧券の販売は午後5時30分まで)

展示替: 11月25日(水)より、一部の作品が入れ替わります。

川村清雄とは、誰か？ 〈日本〉とは、何か？



- 初代新潟奉行や長崎奉行を歴任した幕臣・川村修就(ながたか)の孫。御庭番(隠密)川村帰元(きげん)の長男。
- 徳川宗家第十六代当主・徳川家達(いえさと)のお側仕え。幕末の英傑・勝海舟のお気に入り。
- 幕臣の子でありながら、明治の日本人として最も早い時期に渡欧した、元祖モダンボーイ。
- アメリカ・フランス・イタリアをめぐり、高度なテクニックを身につけた、日本近代洋画の先駆者。
- 「日本人の油絵」を探求、和洋折衷の独自の画風。一見すると油絵には見えないような、不思議な世界。
- 出品総数・約150点。開館30周年記念の特別展。新潟市美術館だけの単独開催。

川村清雄肖像(アメリカにて)1872年頃、東京都江戸東京博物館蔵

●新潟とのつながり

晩年の勝海舟(1823～1899)は、川村清雄の祖父・修就(ながたか、1795～1878)について、「三河武士の美風を受けた正直な善い侍」と懐かしんでいます。新潟が幕府直轄の天領となったとき、修就は初代の新潟奉行をつとめ、その後は堺奉行・大坂町奉行・長崎奉行を歴任しています。新潟では経済振興と治安維持につとめ、海防体制の確立や砂防林の植林など、豊かな港町のかたちを作り出すことに手腕を発揮し、今も新潟の偉人として親しまれる人です。

●新世代のサムライ

清雄は嘉永5年(1852)、江戸麹町に川村家の長男として生まれています。長崎奉行をつとめた祖父の趣味もあって、幼いころからコーヒーやバターなど長崎経由の西洋の文物にも親しんでいました。明治元年(1868)に徳川宗家第十六代当主・徳川家達(いえさと)のお側仕えに選ばれ、明治4年(1872)には徳川家の留学生として洋行することになりました。その背景には、大久保一翁(いちおう、1818～1888)や勝海舟ら、祖父と親交した旧幕府の重臣たちの、終生にわたる熱心な応援がありました。



左:《ヴェニス風景》明治20～30年代、カンバス・油彩、58.6×118.4cm、新発田市蔵 ※2013年に発見された作品

右:《水辺の楊柳》大正～昭和初期、カンバス・油彩、60.5×174.5cm、公益財団法人徳川記念財団蔵

●完璧なテクニク

清雄はアメリカ、フランス、イタリアをめぐり、留学期間は10年に及びました。夢中で西洋の絵画制作技術を学び、ヴェネツィアの美術学校では首席を取るまでになります。画面の暗いところを薄く、明るいところを厚く、絵具を何層も重ねて描いた彼の作品は、西洋絵画の古典的な技法に則ったものです。その深みのある色彩と質感、現在でもほとんど劣化の見られない堅牢な絵肌は、日本近代洋画史上、最も高い水準のテクニクを示しています。

●江戸前の油絵

ところが、彼は西洋美術の「輸入」だけに満足せず、和洋を折衷させた画風で異彩を放つことになります。本展では、箔地や漆板に描かれた作品や、屏風や扁額に仕立てられた作品など、一見すると油絵には見えないような、不思議な作品を数多く展示します。清雄の作品は、印象派以降の近代絵画とくらべれば、古めかしく見えるかもしれませんが、それが油彩画であるという点において、実は極めて斬新なものでした。そこには、幕臣の子としての旧時代への追憶の一方、「日本人の油絵」を創り出すという野心もありました。

●川村清雄の〈日本〉に出会う

この展覧会では、近年新発田市で発見された作品や、このたび初めて公開される個人所蔵作品、独特なブックデザイン、時代の激動を伝える川村家文書(新潟市歴史博物館蔵)など、約150点の作品・資料を紹介します。新・旧、内・外が入り混じった、川村清雄の複雑多様な世界。近年さかんに再評価される異能の画家との出会いは、「日本」とは何か、という大きな問いへの誘いともなるに違いありません。

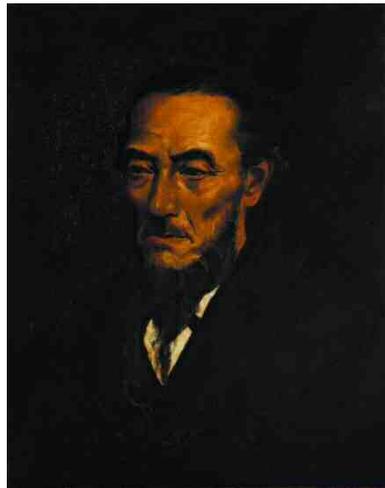


左:《蛟龍天に昇る》1891年頃、カンバス・油彩、90.5×181.0cm、福富太郎コレクション資料室蔵 ※勝海舟旧蔵、展示期間:11月3日～23日

右:《素戔鳴尊図屏風》大正～昭和初期、絹本油彩・六曲一双(左隻)、140.0×290.3cm、細見美術館蔵 ※金地屏風の油絵



《滝》大正～昭和初期、カンバス・油彩、
198.0×73.0cm、平塚市美術館蔵



《大久保一翁肖像》
明治中期、
カンバス・油彩、
48.6×38.2cm、
大久保家蔵



《パルスレイケン像》
明治期
カンバス・油彩、
65.2×53.1cm、
公益財団法人日動美術財団蔵
※勝海舟旧蔵、海軍伝習所で海舟らを
指導したオランダ軍人の肖像
※展示期間：11月25日～12月20日



《梅と椿の静物》1929年以前、絹本油彩、
123.0×44.0cm、三重県立美術館蔵



《振天府下図》
1931年以前、
カンバス・油彩、
71.2×60.7cm、
明治神宮蔵
聖徳記念絵画館(明治神宮外苑)の
壁画のための下図



《鶏図》明治期、板・油彩、40.0×133.0cm、福井家蔵

関連事業

(1) ご近所ツアー「ナガタカ・クエスト」

案内人：野内隆裕さん(日山五合目館長、路地連新潟メンバー)
 日時：11月8日(日)午前9時30分～正午ころ
 内容：初代新潟奉行・川村修就の足跡を、美術館周辺の徒歩圏内にたどる。
 定員：20名(対象：小学校高学年以上)
 参加無料・要事前申込：往復はがきに、ご希望の方全員(2名様まで)の氏名・年齢・住所・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、新潟市美術館までお送りください。締切10月26日(必着) ※集合場所など詳細は、参加者にもお知らせします。(申込多数の場合抽選)

(2) 講演会「川村清雄、人と仕事」*

講師：丹尾安典さん(早稲田大学文化構想学部教授)
 日時：11月14日(土)午後2時～(約90分)

(3) 講演会「初代新潟奉行・川村修就の治政」*

講師：中野三義さん(新潟奉行川村修就研究家)
 日時：11月22日(日)午後2時～(約90分)

(4) 美術講座「テイスト・オブ・脂(ヤニ) ～明治時代の『日本的洋画』～」*

講師：藤井素彦(新潟市美術館学芸員)
 日時：12月19日(土)午後2時～(約90分)

*講演会・美術講座は、いずれも当館講堂にて・聴講無料・事前申込不要・定員100名・開場30分前

(5) 学芸員のギャラリートーク

11月15日(日)、11月29日(日)、12月13日(日)
 各日午後2時より・企画展示室にて(約30分、要観覧券)

会場	新潟市美術館(企画展示室)
会期	2015年11月3日(火・祝)～12月20日(日) ※42日間
展示替	11月25日(水)より、一部の作品が入れ替わります。
休館日	月曜日(ただし11月23日[月・祝]は開館)、11月24日(火)
開館時間	午前9時30分～午後6時(観覧券の販売は午後5時30分まで)
観覧料	一般：1,000円(前売・団体800円) 大学生・高校生：800円(団体600円) 中学生以下無料 ※カッコ()内は前売・20名以上の団体・リピーター割引料金 ※リピーター割引：本展の半券提示で2回目以降のご来場は団体料金に割引 ※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(受付でご提示ください)

[前売券販売所：販売期間10月5日～11月2日]新潟市美術館、新潟市新津美術館、新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、hickory03travelers、シネ・ウインド、トップトラベル新潟(DeKKY401内)、新潟伊勢丹、文信堂 CoCoLo 万代(新潟駅地下)、セブン-イレブン(セブンコード041-604)、インフォメーションセンターえん

主催	新潟市美術館、NST
後援	新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ(予定)

「開館 30 周年記念 川村清雄展 古今・東西・混ざり合い」
開場式取材・チケットプレゼント、記事掲載申込書 (FAX 専用)

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆開場式 (11 月 2 日午後 3 時～) の取材、記事掲載時の作品写真 (画像データ) 及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込みください。
- ◆本リリースならびに別添のチラシに掲載の画像は、すべてデータで提供可能です。ただし、ご使用は本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は 1 媒体につき 10 組 20 名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1 部ご送付ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	11 月 2 日開場式・開場式以降 (月 日 時頃) ・取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1 媒体につき 10 組 20 名様まで
通信欄 (画像の希望等)	